The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	田口, 鐵男
Citation	癌と人. 2014, 41, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/36343
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ご　あ　い　さ　つ

理事長　田　口　鐵　男*

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、公益財団法人大阪癌研究会に対し、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昭和１０年に大阪財界、有志の方々のご支援により本財団の前身である「大阪癌治療研究会」が設立され、西日本におけるラジウム治療のセンターとして役割を果たして来ましたが、戦後アイソトープの時代となってラジウム事業を終えることになり、昭和３９年から「癌に関する学術研究助成事業と癌に関する知識の普及活動」を目的として「財団法人大阪癌研究会」と名称を改めました。

更に、新しく制定された公益法人制度により、平成２３年４月１日に「公益財団法人」として認定され今日に至っております。この間、深いご理解とご支援をいただきました企業を始め多くの市民の皆様に、改めて心からお礼申し上げます。

本財団は癌の撲滅をめざして、全国の研究機関等から癌に関する研究を公募し、癌の研究者に対する研究助成を実施するとともに、会誌「癌と人」を発行・無償配布し、癌に関する知識の普及、啓発活動を行うなどの事業を実施してまいりました。本年度も引き続きこれらの事業を行ってまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、平成２５年８月に、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省の３省協働によってとりまとめられた報告書「今後のがん研究のあり方について（今後のがん研究のあり方に関する有識者会議）」が公表され、種々の提言がなされました。

この報告書でも触れられているように、癌は昭和５６年より我が国の死因の第１位を占めており、平成２０年には約７５万人が癌に罹患し、生涯のうちに約２人に１人が癌にかかると推計されるとともに、高齢化に伴う癌患者の急増により癌死亡者数が増加することが懸念されています。癌を克服するための課題は山積しており、国をあげての癌対策の重要性は今後ますます大きなものとなっております。

現在、政府は癌検診の受診率５０％を目標としていますが、現状では２０～３０％程度であり目標を大きく下回っている状況にあります。癌予防の基本は早期発見、早期治療にありますので、自らの健康は自ら守るという点からも、多くの方が癌検診を受診されるようお勧めいたします。

研究面においては、多くの研究者の努力による研究の進展により、治療面での一定の成果を上げてきましたが、いまだ癌を制圧するにはいたっておりません。癌の制圧のためには癌の本態を解明することが不可欠で、難治性癌や希少癌等の特質を解明するための研究や治療法開発の一層の推進が求められているところであります。
研究者の更なる研鑽と研究環境等の整備・充実を期待するとともに、癌医学の発展のため、今後とも多くの皆様の力強いご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

＊公益財団法人大阪癌研究会理事長、大阪大学名誉教授